

令和3年度 第1回 精神保健福祉士養成学科 教育課程編成委員会 報告書

開催日時：令和3年8月2日（月）15：30～17：00

場所：zoom 形式

参加者名

委員 阿部 未麻貴（医療法人社団総合会 武蔵野中央病院 相談室長）

委員 瀬川 聖美（社会福祉法人 本郷の森 理事長）

委員 関原 育（東京都精神保健福祉士協会 理事）

教員 岡崎 直人（精神保健福祉士養成学科 学科長）

教員 根本 典子（精神保健福祉士養成科 学科長）

職員 萬崎 保志（教務課次長）

職員 松木 健太（教務課）

職員 板野 弘明（教務課）

議題：

1. はじめに

冒頭、司会の松木より、本委員会の開催趣旨及び前年度から引き継ぐ協議内容の確認があった。

2. 検討事項

①卒後の就職先への定着の一助となるよう、「課題意識」の醸成や自身の将来像をイメージさせるための入学者の意識向上策

岡崎)

昼間部の入学前学習会は、自立訓練施設に勤務する精神保健福祉士の業務について紹介したNHKの番組の録画動画を見た後、事前のイメージとの有無等について小グループでの意見交換を行う。また、卒業生を招いて年間の学校生活を話してもらうなど。

根本)

夜間部は入学前学習会を開催予定だが、今年度はオープンキャンパスでの入学予定者へのメッセージを強化していきたい。そのため、各委員にも現場のワーカーという立場で精神保健福祉士の業務や魅力・目指して欲しい人物像などについてメッセージを頂けないか。（根本）

<各出席者からの意見>

瀬川委員)

以前、職員が学内演習に協力した経験がある。同様の形であれば協力できる。

阿部委員)

自分も以前学生を前に話した経験がある。職場によっても働き方が違うと思うので、協力は可能

関原委員)

了解した。精神保健福祉士も色々な分野で活躍しているので、幅広く紹介できることは良い。

萬崎)

単に話者を増やすのではなく、まずプロローグとして聞き手である入学予定者に何を把握してほしいかという事前説明を行うべき。また、それぞれの施設の違いやその現場における精神保健福祉士の職域の違いなどを教員が補足することで、聞き手の理解もより深まるのではないか。

②国試対策について報告

岡崎)

- ・ 3名いる専任教員が、1コマずつ国試について話す計画。1コマは国試に向けた勉強のやり方などについて話す予定だが、あと2回の内容は未定。
- ・ 学生の受験に対する意識が二極化しており、意識の高い学生が自主的に学習会を企画するなどして前向きに進める一方で、コロナの不安を理由に登校さえ難しい学生もいるのが現状。
- ・ 大学既卒対象学科にもかかわらず、受験勉強のやり方さえも判らない学生がいる。面談中心のAO入試が一般化した弊害か。
- ・ 時間割がタイトなため、「国試対策」といった授業外のコマをコンスタントに設けることが難しい。

<各出席者からの意見>

特に無し

③今年度の実習について

岡崎)

医療機関実習(90h)は、7日間を学内実習に振り替え。現場の精神保健福祉士に来校頂き、現場の話や事例の紹介。残る2日は、国家試験後に見学実習など、なんとか現場を知る機会に充てたいが状況次第。一方、地域実習はすべての日数を配属で行う予定だが、体調やワクチンの接種状況など事情によって12名は学内実習とする予定。

<各出席者からの意見>

瀬川委員)

今年度、勤務先で本校の卒業生2名を含む3名を採用した。今は、現場実習で利用者と触れ合うことができなかったことを補うかのように、一生懸命話しかけてコミュニケーションを取っている

阿部委員)

新卒者を採用すると、採用側の不安もさることながら、入職者のほうも現場のイメージがつかないで困惑している。現場実習に出ないことで、利用者さんのあり方や個性を経験できていないのはとても大きい。

関原委員)

精神保健福祉士になりながらも、精神病院に入ったこともない、患者さんを相手にしたこともないという話を聞く。地域と医療機関の違いも実際に経験していないというのは大きなハンデと言える。

岡崎)

学生からも不安の声はある。地域については zoom で繋いで話を伺うこともできるが、医療機関の患者さんはそうもいかない。半日程度の施設見学で雰囲気を感じてもらえる程度がギリギリのところかと思う。

阿部委員)

現場としては、なんとかデイケア程度のところまでというところ。

④自由意見

関原委員)

現状では出来ないことがあるのは致し方ないが、本来は正式な実習に出る前に、当事者と触れ合う機会があると、自分なりのワーカー像が作れるのではないか？

阿部委員)

本来の実習を行うことが出来なかった卒業生についての「検証」を行ってはどうか。通常の実習が出来ていた時の学生と、コロナ禍下での卒業生とで、どのような差があるのかを総括しておくことは、今後の参考にもなる。

→ (岡崎) 良いアイデアだが、卒業生のプライバシーの問題も良く考える必要がある。

→ (萬崎) 趣旨はよく理解できる。前向きに検討したい。

瀬川委員)

当事者を動画であれ zoom であれ、そこに参加させるのには相応の準備が必要。現場の負担も大きく、なかなかすぐにその範囲を上げたり、手法を変えたりということは現場としても難しいところがある。

阿部委員)

卒業した後の進路の状況調査などはどうしているのか？

→ (根本) 学生から教員に対し、個別に連絡を受けている。その中で、就職したものの、思っていたのと違ったという声もあった。

→ (岡崎) 今、月一回程度の頻度で、昨年の卒業生 10 数名による事例報告会をやっている。

<まとめ>

- ・ 精神保健福祉士としての自身の将来像を入学者に具体的にイメージしてもらうために、入学前学習会の改編を検討する。対面に限定すると、コロナのこともあって回数が限られるが、zoomなどを活用すればその制約にこだわらなくてもいい。本委員会の委員を中心に、現場ワーカーからの紹介コメントを頂けそうだが、そのほかどのようなコンテンツで資格や就職先のイメージを持ってもらうのか、次回までにおおよその案を固め、次回提示する。
- ・ 学内実習には考えられうる工夫を施しているものの、特に医療機関は具体的な見せ方がとても難しい。デイケアや半日程度の院内見学など、少しでも学生が現場の“空気感”をつかみ、患者と触れ合う機会を設けることを検討する。
- ・ 現場実習を何らかの形で代替にて振り替えた、いわゆる「コロナ世代」の卒業生については、卒後のアンケートによる何らかの検証が必要である。ただし、その実施にあたっては、卒業生のプライバシーを守る点に最大の注意を払わねばならない。実施形態、可否などについて引き続き検討していく。

以上